

平成 22 年度北九州市地方独立行政法人評価委員会（第 3 回）

日時：平成 22 年 6 月 24 日（木）

14:00～14:40

場所：北九州市役所 5 階 特別会議室 A

【事務局】

定刻でございますので、よろしいでしょうか。

ただ今より、「平成 22 年度第 3 回北九州市地方独立行政法人評価委員会」を開催いたします。

はじめに、資料の確認をさせていただきたいと思えます。お手元に配布してございます資料、1 枚目に次第がございます。その次が【資料 1】といたしまして、地方独立行政法人法のうち、関係条文を抜粋したものでございます。次に【資料 2 - 1】でございますが、同法に基づいて市が本委員会に意見を求めるための依頼文書をお付けしております。続きまして、資料 2 - 2 と資料 2 - 3 といたしまして、第二期中期目標案でございます。これは、前回ご提示いたしました第二期中期目標素案に本委員会でいただきましたご意見を反映させたものでございます。資料 2 - 2 は修正箇所が分かるように、見え消しで記載しております。資料 2 - 3 は清書したものでございます。最後でございますけれども、資料 3 といたしまして、本日ご審議いただく第二期中期目標に対する本委員会の意見書案をお付けしております。

続きまして、参考資料でございます。参考資料 1 と参考資料 2 といたしまして、リスクマネジメントに関する経済産業省や総務省の資料をお付けしてございます。最後に参考資料 3 といたしまして、今後の本委員会のスケジュールをまとめたものでございます。

以上でございますけれども、よろしいでしょうか。

それでは、委員長、議事のほう、よろしく願いいたします。

【委員長】

ただ今から次第に沿って、議事を進めてまいりますので、ご協力をお願いいたします。

それではですね、議題の公立大学法人北九州市立大学の第二期中期目標案につきまして、まず事務局の方からご説明をお願いします。

事務局より説明

市より説明

【委員長】

ありがとうございました。ただ今ご説明いただきましたが、前回もここでご審議いただき、一部修正その他を加えていただき、本日ここに案がつけておられます。何かこれについて、ご意見、ご質問、あるいは、先ほどの資料のリスクマネジメント、クライシスマネジメント、その辺で何かありましたらお願いします。

【委員】

ここでも、何度か議論していますので、根本的なところは、よろしいと思いますが、質問でございます。教育に関する目標、研究に関する目標を掲げておりますが、この内容に沿って、我々、評価の細かい項目を展開していくことになるかと思いますが、そのときに教育や研究の環境を揃えることは読み取れますけども、ハードだけでなく、ソフト面の優れた教員を採用するとか、あるいは教員をそのように育てていくというようなこと、そういうようなことが、教育面、研究面がこの二つの目標から展開できるようになっているのかどうか。その辺いかがでしょうか。評価では、たぶん取り上げられることになるのではないかと。

【市】

私ども、目標としては、そこまで踏み込んで中期計画に盛り込んでほしいという意識で記載しております。ですから、最終的には年次計画といえますか、毎年評価していただいている業務評価は、中期計画に基づいてしていただくことになりまして、最終的にこの中期目標を大学に提示いたしましたときに。

【委員】

そうすると、2の大学院教育の充実とあって、各研究科・専攻の人材養成というのは、これは教員の方をさしているのですか。

【市】

これに関しましては、研究者の育成として、どちらかという研究分野の方で、研究者の育成も含めて考えていただこうかなと考えているのですが。

【委員】

そのようなことが、評価を展開していくときに連続していければいいのですが。

【市】

逆に、評価委員会でこのようなご意見をいただきましたので、中期目標をかみ砕いて中期計画を作っていただくときにそういったご意見を伝えて、いわゆる定量なのか、定性的な評価なのか、評価がしやすいように要望としてお伝えしておきます。

【委員長】

今の中期計画は、大学が今進めているのですか。

【市】

現在、作業を進めているところです。

【委員長】

ほかに何かございませんでしょうか。

【委員】

全体をとおして、表現上のことを2～3点ほどお尋ねします。まず、人材の養成という言葉と人材の育成という言葉が見られるのですが、何か区別してるのですか。この1枚目

の大学院教育の充実では養成、3の学生支援では、育成、次のページの教育機関との協同、ここでは育成と。限りなく学生を対象にしているのであれば、育成でいいのですが。その辺どうでしょうか。

【市】

参考にしましたのが、国の方で作られている教育振興基本計画だとか、大学設置基準などを参考にしたものですから、どちらかといいますと、それらから引用しております。そういう意味で、教育的な、学習教育ということになってくると育成ということになります。

【委員】

それから、大学活動、あるいは大学に関して、特色のあるという表現と、特長のあるという表現があるかと思いますが、1ページ目の2の地域、アジアをはじめとする国際社会の発展への貢献というところでは特色ある大学活動とあります。2ページ目の大学認知度の向上のところでは、北九州市立大学の特長となっている。これは意図的に使い分けているのかどうか。強いて言えば、特色は何となく分かるんだけども。市立大学の特長といったら一体何なのか。

【市】

特色と特長というと、言葉のとおりで、北九大に特化した特長が大学の方で見出せるのであれば、それを推し進めてほしいということで、深くですね、特色ある大学とは、言葉の流れ的にどうなのかという程度でしか考えておりません。言葉の語彙ということになりますと。

【委員】

特に、変えようということではないのですが、改めて北九州市立大学の特長というと、どういうことを思い浮かべることになるのでしょうか。公立大学であるとか、これは特長ではないのですかね。

【市】

前々回るとき、私どもの方で3つのキーワードとしてあげさせていただいた、環境・アジア・地域の中で、公立大学であるということもありますが、特長の部分でいいまして、環境工学部を創ったと、その部分を踏まえてほしいということで。

【委員】

特長となると価値観が入りますよね。優れているだとか。それは意図的に使われているのですか。もう一つの特徴ではなくて、長いという方を使われていますが。

【市】

これは、中教審においても、中長期的な大学教育という第一次報告がありますが、その中で、各大学は自らの特長を活かす中で、機能別に分化していくことが期待されとあります。そこから引用しております。

【委員】

それは長いという字が使われているのですか。

【市】

はい。

【委員】

それについては、各大学の任されているということなんですね。

【委員】

基本的には、長いの方は、良いということに。

【委員】

特色も近いから、もう少し一般的なものに。それから、細かいことなんですが、中期目標の最初の行に、開学以来の歴史と伝統の継承とありますが、伝統の継承はイメージがわくのですが、歴史の継承となると具体的に何なのか。

【市】

北九州市立大学の定款にうたわれていることをそのまま踏襲したものですけど、やはり63年前からの変遷を踏まえての歴史、学歴といいたいでしょうか。60年も経てば、大学のOBも5万人を超えて事実としての歴史といいたいでしょうか。たくさんのOBも抱えている定着している伝統もあるでしょうということなんですか。

【委員】

遺産のようなものを大事にするといった意味なんですかね。必ずしもいいことばかりではないですからね。深い意味はありませんが。

【委員長】

今、委員からありましたが、人材の育成なのか、養成なのか、ある程度きちっと整理する必要のあるのかもしれないですね。大学の定款にあるものはそのままいいのでしょうか。我々も文章を書くときに、育成と養成は使い分けますのでね。

【委員】

2ページ目の社会貢献に関する目標の教育研究機関との協同のところ、環境改善などの国際協力の取組みとありますが、取組みが学术交流や人材育成までかかるのか、国際交流だけにかかるのか、「の」ということで、頭に入ってこないんですね。環境改善などの国際協力への取組みとか。

【市】

ここの部分はですね、正直文章を途中で変えたので、構文的に読みにくくなった面がございまして、最終的には文書課と、いわゆるこういう文書を作るときに市民に向かって発信する場合に、構文的に主語述語の関係で、これで整理がつくのか、ご相談させていただいているところがございます。意味としては、こちらの方で作りました文章の意図が伝わるかどうかについては、専門家の目で文書課に見ていただくこととなります。確かに構文的に見にくいという感じもございますので。

【委員】

2 ページ目の第5の2の財務内容の改善のところ、自主財源の充実と管理的経費の抑制などによりとありますが、管理的経費の抑制とは、おそらく現状を抑えなさいという意味だと思いますけれども、一般的に使われているのですか。適正化ではなくて。管理的経費となると人件費が入ってくるのですよね。

【市】

第一期中期目標においても、管理的経費の抑制と使っておりまして、管理運営の部分は中期目標に書かなければならないことになっております。

【委員】

言葉の意味としたら、増やさなければいいという、抑えるということなんですかね。第一期で書かれているのでしたら、このままでいいかと思いますが。適正ということに受け取ればいいのでしょうか、単に抑制ということになると必要なものも切り詰められてしまうということも心配しないかと。

【委員】

適正化となれば、必要であれば増えても仕方ないということになるのでしょうかけれども、それでも削減ということが抑制になるのかなと考えているのですけれども。削減とまでは言っていませんよね。削減と言ってしまうと削らなければならなくなって、前年度と比べて必ず減になっていなければなりませんし、これ以上増やせませんよという、国の予算方針のようなものになりますかね。適正化というになると、適正化のためには増やしても仕方ないということになりますし、抑制であれば、増やしたくても今のその枠の中でやっていきなさいよということですね。

【委員】

非常に重い意味を持つ感じですね。これで一期もやってきたので、いいかと思います。

【委員】

管理的経費の中身まで、ここではうたえないからですね。教育に直結するようなことであればですね。そこが、私立であれば、適正化の方がいいのかもしれませんが、公立で税金ということになればですね。

【委員】

熟慮の末のことでしょうから。

【市】

経費の抑制ではなくて、管理的経費の抑制としているところに大学にも工夫の余地があるということですね。

【委員】

管理的経費の中には、人件費も含まれるという説明でしたかね。

【市】

大学側で管理的経費というときには、教育資源とは別で管理は仕分けられます。経費の区分では管理的とは言わないかもしれませんが、全体的な中で、持続可能な財務状況を確立していただきたいといったときには、人件費に関しては、教育資源とは別に考えていただきたいという部分ではあります。これは、中期計画の中に、細かく財務計画を書いているだけでいいことにはなるのですが、基本的には、この管理的経費というのは、教員を資源として考えた場合のそれとちょっと違うことになります。

【委員長】

ということは、人事関係の費用なんかは。

【市】

簡単に申し上げますと、事務の資料の無駄遣いをするとか。イメージとして事務官がやっていた方がいいことになります。

【委員長】

今の民主党の事業仕分けでいくと、理事の報酬のところまでギリギリいくのかということにもなります。

【市】

ないとは言い切れませんね。

【委員長】

ほかにご覧ですか。よろしゅうございますか。なかなか大変だとは思いますが、やはり中期目標が一番の基本になる場所ですのでね、文案の訂正等の作業はご了承をいただきたいと思っております。要するに第二期中期目標案に対する評価委員会の意見書を決定しなければなりませんので、それについてお諮りするわけでございます。先ほどございましたように、資料2-1ですか、中期目標を定めるにあたり、地方独立行政法人法第25条第3項の規定により、貴委員会の意見を求めますとこういうふうでございますが、今を受けまして、資料3に意見書として、公立大学法人北九州市立大学の第二期中期目標案の検討について、地方独立行政法人法第25条第3項の規定に基づく北九州市地方独立行政法人評価委員会の意見は下記のとおりであると。平成22年6月18日付北九産総学第26号で提出された第二期中期目標案の検討について、当委員会で審議した結果、適当であるということではよろしゅうございましょうか。

【他の委員】

はい。

【委員長】

ありがとうございました。それでは、今申し上げましたとおり、意見はなしということで、市の方に提出していただくこととなります。それでは、今後のスケジュールについて、事務局から説明してください。

事務局より説明

【委員長】

ありがとうございました。7月は2日と16日の2日間は決定ということによろしいですね。それから、もう1点確認ですが、8月については、再度調整をということですね。わかりました。もう1点確認ですが、例年どおりの業務評価についてなんですけれども、中身というか内容は、従来よりも減っているということによろしいのでしょうか。従来どおりですか。

【市】

昨年度、21年度についての業務評価ということになります。もともと中期計画そのものが169項目ございまして、すでに97%が着手済みということであれば、残りということでしたら、減ってくる感じですが、ただ、既に実施済みとなっているものであっても、報告が出てこないとも限らないと思います。

【委員長】

要するに、ある程度実施が進んでいて、評価もちゃんとされていると、でもなおかつそれで継続されているものもございましょうからね、それは当然実績についての評価はあるかと思いますが、既に終了しているようなものもあるはずで、確か今年度の一番最初の会議で項目が減るのではないかというお話があったと思いましたので。

【市】

私の記憶では、委員長から、大学からのやったやったのPRが多すぎて、どれを評価していいのかわかりにくいので、資料を分かりやすく整理してほしいというご指示を出されていらっしやいましたので、評価していただきやすい資料に整理するのだと思います。

【委員長】

わかりました。これは、大学側の問題になりますのでね。わかりました。ありがとうございました。ということでございますけれども、何かよろしゅうございますか。

【委員】

日程は、この日にちでということですが、時間はすべて14時からということによろしいでしょうか。

【事務局】

はい。

【委員長】

よろしゅうございますか。特に意見はございませんようですので、40分足らずの時間でしたが、これで終わらせていただきたいと思います。委員の皆様大変お疲れでございました。担当の人も大変でしょうが、よろしく願います。ありがとうございました。

(一同「ありがとうございました」)